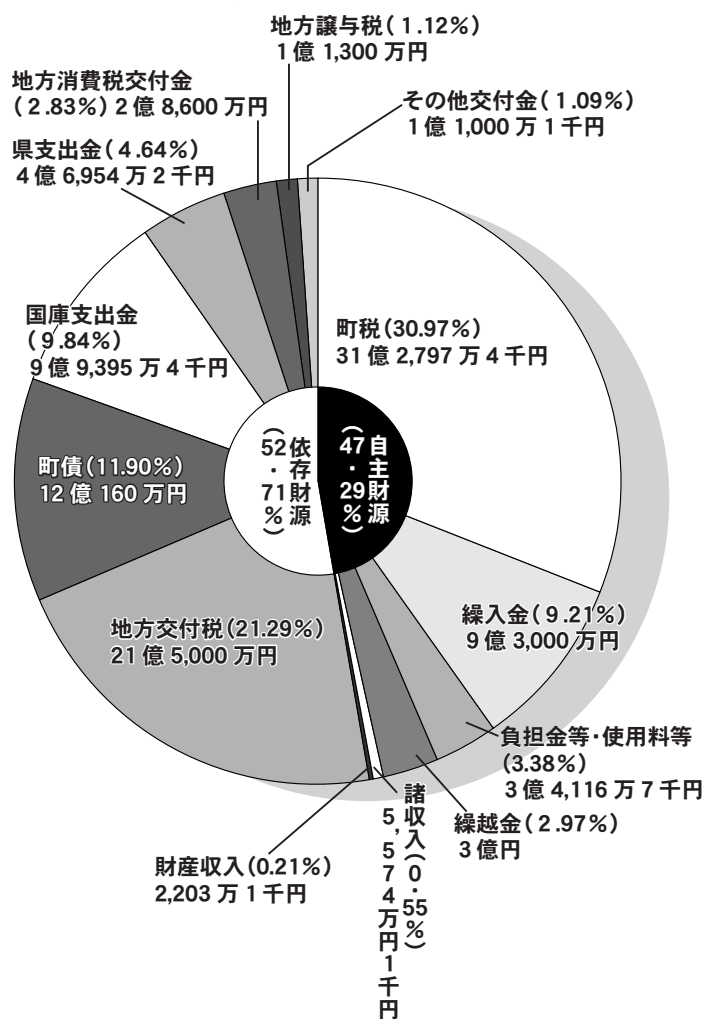


特別会計当初予算

一般会計歳入 101億101万円 が決まりました。



わたしたちの住みよい町づくりの根幹となる平成20年度一般会計、特別会計および水道事業会計の当初予算が、3月町議会定例会において可決されました。

総予算額は、185億8,556万円で、前年に比べ、18億3,045万3千円(9.09%)の減少となりました。

その概要は、一般会計が101億101万円で、昨年と比べると5億9,784万7千円(6.29%)の増額となりました。一方、特別会計の総額は、80億7,432万7千円となり、前年比で24億2,012万9千円(23.06%)の大きな減少となりました。これは、後期高齢者医療の新設により、老人保健特別会計予算が大きく減少したのが要因です。また、水道事業会計も、4億1,022万3千円で、前年比817万1千円(1.95%)の減となりました。

いずれも町の発展と住民サービスの向上を最優先に考えるという方針の下、平成18年度から導入した行政評価システムをもとに、より一層の行財政の改革に努め、歳入、歳出の両面にわたる徹底した見直しをしたものです。

歳入

歳入では、町税が1億5,072万9千円の増、地方交付税が5千万円、また、国庫支出金が3億6,157万6千円の増加となっています。地方交付税は地方再生対策費、国庫支出金は益城中央小学校の移転改築およびまちづくり交付事業の影響によるものです。

自主財源は47・29%で、主なものは、町税は31億2,797万4千円、繰入金が9億3千万円、繰越金が3億円となっています。

一方、依存税源は52・71%を占め、主なものでは、地方交付税が21億5千万円、町債が12億160万円、国・県支出金の合計が14億6,349万6千円、地方譲与税および地方消費税交付金が3億9,900万円となっています。

歳入については、過大見積りは厳に慎み、的確な試算のもと正確な額を見込んでいます。

歳出

歳出では、教育費が28億119万6千円で、予算の27・73%を占め、中央小学校移転改築、交流情報センター運営等により5億7,433万1千円増加しています。次に、民生費が24億6,268万1千円で予算の24・38%を占め、後期高齢者医療費、ひろやす第二保育園の新築に伴う保育所運営費、対象者の拡大に伴う子ども医療費助成等により2億2,288万1千円の増加をしています。次に土木費が15億153万1千円で14・87%を占め、地域再生事業費および公共下水道特別会計への繰出金が主なものになります。

教育事業や福祉を最重要課題として、住民生活とサービス向上を目指した内容です。